

令和 6 年度 園評価書

園番号 14

園名 薬科こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かな たくましい子	自分で やってみよう ～気づく 考える 伝える～	・子どもが園で安心して生活し、思いや要求を自分なりに表現している	○保育者や友達との安定した関わりの中で、“やってみよう” “もっと～したい” “今はやりたくない” 等、自分の思いを十分表現することができる。 ○言葉で伝えることが難しい時は、表情やしぐさで伝えようとする姿がある。 ○自分から思いを伝えられない時は、子ども一人一人の表情や仕草から思いを読み取り、表現できるまで待ったり、タイミングを見て問いかけたりし、子ども自身が表現できるように援助している。	A	A	○保護者アンケートの①、③がA100%という点からも、子どもたち一人一人の実態を把握しながら支援することができていると思う。	○自分の思いを様々な方法で表現するようになってきている。今後は友達とやりとりする姿が増えるように見守ったり、関わり方を工夫したりして援助していきたい。
		・子どもが“～したい”という思いを持ち、“やってみよう”と自ら動き出している	○“こうしたら面白いかも！やってみよう”と友達と一緒に必要な物を作ったり、準備したりする姿がある。 ○子どもたちがやりたいと思うことを十分にできる時間を保障し、廃材、教材などを用意している。さらに、廃材コーナーの位置を工夫したり、製作ワゴンに用意する素材、教材、用具などを見直したりしたことで、子どもたちの“やってみよう”を引き出し、自ら使いたいのものを選んで遊ぶ姿が見られる。 ●様々なことに興味を示し、“やってみよう”という思いがある反面、難しいと感じるに近くにいる大人や友達に助けを求めようとする姿がある。職員は見守ること、関わるタイミングや関わり方を見極めることの大切さを認識し、保育を進めている。	B	A	○保育を参観して、子どもたちの可能性を広げるための環境を用意しているということがわかる	○“やってみよう”という思いが“自分でやってみよう” “友達とやってみよう”という姿につながるよう、関わるタイミングや方法の工夫、考えたり試したりできる環境づくりを行っていく。
		・子どもが、自分に思いや考えがあるように相手にも思いや考えがあることを知り、やりとりを重ね、関わりを深めている	○友達と関わる中で、相手に思いがあることに気づき、聞こうとする姿が見られるようになってきている。 ●相手の思いに気づくことが難しい場面もあるため、保育者が互いの思いに気づくことができるよう仲立ちするなど、更に関わりを深めていくことができるような援助が必要である。	B	B	○友達に対して「思いやり」をもって接するという事は、小学校高学年でも難しいこと。これからも相手にも思いや考えがあることを知り、やりとりを重ねる中で関わりを深めていくことを求め続けていってほしい。	○必要に応じて保育者が仲立ちとなり、相手の思いに気づけるような言葉かけをしたり、友達に思いを伝える方法を一緒に考えたりして、関わり方を深められるようにしていく。

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・発達や経験の差を把握、理解した上で、学年目標に向けた教育保育を実践している	○全体的計画の年間計画と照らし合わせながら子どもたちの発達や育つべき部分を把握し、保育を進めている。 ○一人一人の発達、経験、興味関心に基づいて、月案、週案を立案している。また、発達や興味に沿った環境を用意したり、子どもの興味関心を引き出したりすることで、子どもたちがやりたい遊びを見つけ、意欲的に取り組めるようにしている。 ○毎日の短時間の会議において、その日の保育を振り返り、クラスの様子を伝え合うことで、子どもの姿や遊びの様子を園全体で共有し、一人一人の発達や遊びを支えられるようにしている。	A	A	○用意されている環境から、ねらいをもって指導されているということが伝わってくる	○日々の子どもの姿や遊びの様子を毎日伝え合うことを大切に、全職員が共通理解のもと学年目標に向けた教育・保育を実践できるようにする
		・子どもが安心して園生活を送ることができるよう、1号認定児と2号認定児の生活のリズムの違いを踏まえた配慮がなされている	○1号認定児と2号認定児が分かれて過ごす場所の工夫をすることで、一人一人が安心して過ごせるようにしている。 ○年齢や生活リズムに合わせて午睡時間の調整をし、園で生活する時間が長い2号認定児が安定した生活を送れるようにしている。 ○クラスでの振り返りの後、午睡をしない子どもたちには落ち着いて遊ぶ玩具を用意している。 ●1号認定児の降園の際に、玄関で会話する声が響いてしまうことがあり、午睡をしている2号認定児への配慮をしていきたい。	B	A	○1号認定児の降園時に保護者との会話の音が響いてしまうということが反省としてあげられていたが、一人一人の年齢や生活リズムに配慮された生活が考えられていると思う。	○今後も一人一人の年齢や生活リズムに配慮しながら生活を考えることを続け、1号認定児と2号認定児のそれぞれの生活を保証できるようにしていく。
		・子どもが、“やってみよう”と自ら関わり、様々なことに気づき、考えたり試したりすることができる環境が構成されている	○廃材コーナーの置き場所を工夫したり、クラスごとの製作ワゴンの準備、整理をしたりし、子どもたちが“やってみよう”と思えるような環境を作っている。 ○“やってみよう”が次につながるよう子どもたちからアイデアを引き出し、必要な環境を準備している。 ○園庭にある築山で芝滑りをしたり、拾ったどんぐりをさつまいもの蔓で作ったリースにつけたりするなど、多くの自然に触れる中で様々な体験ができている。 ●園庭の遊具が少ないので、それに代わる遊びの工夫をしていきたい。 ●廃材コーナーの見直しをすることで、より子どもの創作意欲につながる為、今後定期的に見直しを行っていく	B	B	○園内研修に取り入れている「遊び展開図」は環境構成に有効。園庭の遊具が少なくなっていく中で、どのように遊びを発展させていくのか、どのように環境を作っていくのかを考えていくうえでよいツールになるため、今後も活用して欲しい。	○遊び展開図の活用方法を工夫しながら、子どもの“やってみよう”につながるための環境を構成していく。 ○園内外の豊かな自然を教育・保育に取り入れ、様々な体験を通して考えたり、試したりすることができる環境を用意していく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・様々な災害を想定した訓練を実施し、課題を明確にし次につなげている	○避難訓練や不審者訓練を実施することで、子どもの“自分の身を守ろう”とする姿に繋がっている。 ○様々な想定で避難訓練を行い、避難方法を職員で共有し、次の訓練に繋げている。 ○災害時に必要な備品の確認や簡易トイレの組み立て、発電機の操作確認等、職員に必要な訓練も行っている。 ○ヒヤリハットはすぐに記入し、伝達ノートに添付することで、当日または翌日には全職員が確認できるようにしている。改善策も記入し、周知することで大きな事故や怪我に繋がらないように努めている。	A	A	○毎月様々な想定した訓練が行われ、子どもたちの安全教育につながっている。保護者アンケートからも、安全対策、安全教育がされているという結果が出ている。	○様々な状況を想定した訓練をしたり、予告なしの訓練を行ったりする中で、反省を職員全員で共有し、臨機応変に対応できる力を養っていく。 ○ヒヤリハットを記入し共有することで、事故防止につなげていく。
		・ヒヤリハットの記録、伝達を実施し、事故を未然に防いでいる	○身辺自立に向けて家庭と連携を図り、一人一人の発達に応じて見守ったり援助したりしている。 ○毎月食育の日を設け、季節にちなんだ食べ物や身近な食べ物の話をする中で、食への関心ももてるようにしている。また、食育の集いで伝えた内容を玄関ホールに掲示することで、保護者にも知らせ、親子で食への関心を高められるようにしている。 ○畑で季節の野菜を育てることで、野菜の生長に関心を示す姿がある。生長した野菜を収穫し、楽しく調理することを通して食への関心を高めている。	A	A	○身に付けたい生活習慣が園生活の中で自然と身につくように、発達に合わせた写真や文字、イラストの入った掲示物が貼られている。園児が自ら気が付くように、さりげなくサポートされている。 ○園の畑で子どもたちが選んだ野菜を育てたり、年長児はクッキングの日もあり、野菜や食に興味をもてるきっかけ作りになっている。	○必要に応じて面談し、様子を伝え合うことで家庭と連携を図り、身辺自立に向けた援助を（全職員で共通理解し）行っていく。 ○“食育の日” “栽培” “クッキング” など、様々な方法で子どもたちの食への関心を高め、食べる楽しさにつなげていく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・生活習慣の自立に向け、家庭と連携を図り、一人一人に沿った援助をしている	○3か月に1度支援計画を作成し、保護者面談を行うことで、保護者とも支援計画を共通理解することができている。 ○クラス担任だけでなく、全職員が同じ支援ができるように月に1度会議で様子を話し合ったり、日々の変化をその都度伝えるようにしている。 ○支援サポート研修に参加し、支援方法について専門家からアドバイスを頂く機会を設け、保育を進めている。 ○支援児が通う通所施設の職員が園での様子を定期的に参観し、話し合う機会をもつことで、共通理解のもと支援をすることができている。	A	A	○作成した個別支援計画をもとに保護者と面談し、内容を共有することで、保護者と共通理解のもと支援をすすめることができている。	○家庭での様子を聞き、連携を図りながら一人一人の発達や特性を把握したうえで、支援計画を作成していく。 ○来年度も支援児が通う通所施設の職員と連携を図り、共通理解のもと支援を進められるようにする。
		・食育活動を通して食への関心を高めている	○普救から声を掛け合い、クラスの様子や行事の準備の進捗状況などを把握できるようにしている。 ○大きな行事の前には進捗確認表を作成し、進捗状況を全職員で確認できるようにした。 ○職員間で話し合い相談しながら企画運営を行うことで、自分の分掌以外にも携わり、協力して取り組むことができた。 ●年度末に各分掌の反省を出し合い、次年度の計画に繋げている。 ●パート職員も各分掌の業務を行っているが、会議への参加は少ない為、より細かい伝達が必要である。	B	A	○様々な勤務体制で働いている中で、全員が会議に参加することは難しい。どのようにしたら全員が会議に参加することができるのか考えてみた時に、インカムを使用することやICT化することが考えられるが、園の予算では難しいところがある。今の状況で可能な限り情報を共有しながら保育を進めることができている。	○分掌の担当職員を中心に計画を立案し、進捗状況を確認しながら準備を進めるようにする。 ○会議に参加することができない職員にも丁寧に伝達をし、全職員が共通認識のもと進められるようにする。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・一人一人の発達、特性を把握した上で支援計画を作成し、保護者面談を実施、職員の共通理解のもと支援している	○研修テーマをもちに園内研修を行い、園全体で園児の様子や課題について話し合い、保育に活かしている。 ○公開保育を実施し、外部の方からも感想や質問、アドバイスを頂くことで、自分の保育を振り返ることに繋がっている。 ○月案・遊び展開図の作成、検討を行う中で、子どもの興味を捉えたり、反省を次の保育に活かしたりしている。 ○遊び展開図をもとに、各クラスの遊びを共有し、検討したことを基に環境作りをしている。	A	A	○遊び展開図を活用することが、環境構成とつながってくる。今後も活用方法を工夫しながら、研修を続けていってほしい。	○園内研修では“遊び展開図”を活用し、研修を進めることで、子どもの興味を捉え、環境構成に活かせるようにする。
		・関係機関との連携を図っている	○早番、遅番時に毎日点検を行い、危険箇所を見つけた際には報告、周知するようにしている。また、園内の危険箇所については会議などで周知し、修繕した関係機関に働きかけたりしている。 ○子どもの発達段階を捉えた環境設定を行い、安全に遊べるように努めている。 ○毎月園内外の安全点検を行っている。 ●広い遊び環境があることは良いことだが、全てを管理することが難しい。	B	A	○園内外の環境については、勤務している職員全員で情報共有する機会を作れるとよいと思う。	○園内外の危険箇所や修繕が必要な所は報告し合い、全職員で情報を共有できるようにする。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・一人一人の力が集まり大きな力となって園を運営していくという自覚をもち、自分の役割を果たしている	○研修テーマをもちに園内研修を行い、園全体で園児の様子や課題について話し合い、保育に活かしている。 ○公開保育を実施し、外部の方からも感想や質問、アドバイスを頂くことで、自分の保育を振り返ることに繋がっている。 ○月案・遊び展開図の作成、検討を行う中で、子どもの興味を捉えたり、反省を次の保育に活かしたりしている。 ○遊び展開図をもとに、各クラスの遊びを共有し、検討したことを基に環境作りをしている。	A	A	○遊び展開図を活用することが、環境構成とつながってくる。今後も活用方法を工夫しながら、研修を続けていってほしい。	○園内研修では“遊び展開図”を活用し、研修を進めることで、子どもの興味を捉え、環境構成に活かせるようにする。
		・他の分掌の内容も知り協力し合っている	○早番、遅番時に毎日点検を行い、危険箇所を見つけた際には報告、周知するようにしている。また、園内の危険箇所については会議などで周知し、修繕した関係機関に働きかけたりしている。 ○子どもの発達段階を捉えた環境設定を行い、安全に遊べるように努めている。 ○毎月園内外の安全点検を行っている。 ●広い遊び環境があることは良いことだが、全てを管理することが難しい。	B	A	○園内外の環境については、勤務している職員全員で情報共有する機会を作れるとよいと思う。	○園内外の危険箇所や修繕が必要な所は報告し合い、全職員で情報を共有できるようにする。
6 研修	(1)研修体制の充実	・研修テーマ『“こうしたい” “もっとこうしてみよう” が動きだすための援助』に沿って園内研修を行い学びを教育保育に活かしている	○研修テーマをもちに園内研修を行い、園全体で園児の様子や課題について話し合い、保育に活かしている。 ○公開保育を実施し、外部の方からも感想や質問、アドバイスを頂くことで、自分の保育を振り返ることに繋がっている。 ○月案・遊び展開図の作成、検討を行う中で、子どもの興味を捉えたり、反省を次の保育に活かしたりしている。 ○遊び展開図をもとに、各クラスの遊びを共有し、検討したことを基に環境作りをしている。	A	A	○遊び展開図を活用することが、環境構成とつながってくる。今後も活用方法を工夫しながら、研修を続けていってほしい。	○園内研修では“遊び展開図”を活用し、研修を進めることで、子どもの興味を捉え、環境構成に活かせるようにする。
		・常に安全な環境の中で子どもが生活することができるよう、安全点検を実施し、危険箇所の把握、修繕を行っている	○早番、遅番時に毎日点検を行い、危険箇所を見つけた際には報告、周知するようにしている。また、園内の危険箇所については会議などで周知し、修繕した関係機関に働きかけたりしている。 ○子どもの発達段階を捉えた環境設定を行い、安全に遊べるように努めている。 ○毎月園内外の安全点検を行っている。 ●広い遊び環境があることは良いことだが、全てを管理することが難しい。	B	A	○園内外の環境については、勤務している職員全員で情報共有する機会を作れるとよいと思う。	○園内外の危険箇所や修繕が必要な所は報告し合い、全職員で情報を共有できるようにする。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・園での取り組みや子どもの姿をお便りの配信や掲示等で保護者に伝えている	○お便り（お便り）は毎月1回発行し、保護者に届ける機会を作り、園での様子が具体的にわかるように工夫している。（コードモンで配信） ○保育参加会、保護者面談以外にも登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。 ○必要に応じて個別に面談する機会を作り、一人一人に合わせた対応を大切にしている。	A	A	○月のお便りやコードモンに園での活動や行事の様子がわかりやすく載っている。特にコードモンでは、その日の様子や遊びの内容、写真が載っていることもあり、保護者が園での様子を知ることができて助かっている。	○玄関掲示やICT化を活用してのお便り、保育ドキュメンテーションの配信を行い、教育・保育活動の様子をわかりやすく伝えていく。 ○保育説明会や保育参加会、面談を活用して園での活動や子どもの様子を丁寧に伝え、信頼関係を築いていく。
		・日々の伝え合いや保育参加会、面談を通してより良い信頼関係を築いている	○お便り（お便り）は毎月1回発行し、保護者に届ける機会を作り、園での様子が具体的にわかるように工夫している。（コードモンで配信） ○保育参加会、保護者面談以外にも登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。 ○必要に応じて個別に面談する機会を作り、一人一人に合わせた対応を大切にしている。	A	A	○月のお便りやコードモンに園での活動や行事の様子がわかりやすく載っている。特にコードモンでは、その日の様子や遊びの内容、写真が載っていることもあり、保護者が園での様子を知ることができて助かっている。	○玄関掲示やICT化を活用してのお便り、保育ドキュメンテーションの配信を行い、教育・保育活動の様子をわかりやすく伝えていく。 ○保育説明会や保育参加会、面談を活用して園での活動や子どもの様子を丁寧に伝え、信頼関係を築いていく。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・園での取り組みや子どもの姿をお便りの配信や掲示等で保護者に伝えている	○お便り（お便り）は毎月1回発行し、保護者に届ける機会を作り、園での様子が具体的にわかるように工夫している。（コードモンで配信） ○保育参加会、保護者面談以外にも登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。 ○必要に応じて個別に面談する機会を作り、一人一人に合わせた対応を大切にしている。	A	A	○月のお便りやコードモンに園での活動や行事の様子がわかりやすく載っている。特にコードモンでは、その日の様子や遊びの内容、写真が載っていることもあり、保護者が園での様子を知ることができて助かっている。	○玄関掲示やICT化を活用してのお便り、保育ドキュメンテーションの配信を行い、教育・保育活動の様子をわかりやすく伝えていく。 ○保育説明会や保育参加会、面談を活用して園での活動や子どもの様子を丁寧に伝え、信頼関係を築いていく。
		・日々の伝え合いや保育参加会、面談を通してより良い信頼関係を築いている	○お便り（お便り）は毎月1回発行し、保護者に届ける機会を作り、園での様子が具体的にわかるように工夫している。（コードモンで配信） ○保育参加会、保護者面談以外にも登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。 ○必要に応じて個別に面談する機会を作り、一人一人に合わせた対応を大切にしている。	A	A	○月のお便りやコードモンに園での活動や行事の様子がわかりやすく載っている。特にコードモンでは、その日の様子や遊びの内容、写真が載っていることもあり、保護者が園での様子を知ることができて助かっている。	○玄関掲示やICT化を活用してのお便り、保育ドキュメンテーションの配信を行い、教育・保育活動の様子をわかりやすく伝えていく。 ○保育説明会や保育参加会、面談を活用して園での活動や子どもの様子を丁寧に伝え、信頼関係を築いていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・公開保育を行うと共に、小学校の公開授業や他園の公開保育を参観して交流を行い、近隣校、園との連携を深めている	○お便り（お便り）は毎月1回発行し、保護者に届ける機会を作り、園での様子が具体的にわかるように工夫している。（コードモンで配信） ○保育参加会、保護者面談以外にも登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。 ○必要に応じて個別に面談する機会を作り、一人一人に合わせた対応を大切にしている。	A	A	○今年度は前年度より他園との交流が多く、初めて会う友達、久しぶりに会う友達と遊ぶ機会が多く、子どもたちにとって楽しい一年だったのではないと思う。近隣の小学校へ行ったり、老人ホームで大道芸を見学したりし、小学校のおおきさん、お姉さんと接することもあり、良い刺激や気づきを得る機会になっていると思う。	○近隣の園や小学校と交流する機会を設け、連携を深めていく。 ○自園の公開保育に参加して頂いたり、他園・他校の公開保育や公開授業に参加させて頂いたりして、交流を図っていく。
		・地域の方との触れ合いを大切に地域に根差した教育保育を実践している	○お便り（お便り）は毎月1回発行し、保護者に届ける機会を作り、園での様子が具体的にわかるように工夫している。（コードモンで配信） ○保育参加会、保護者面談以外にも登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。 ○必要に応じて個別に面談する機会を作り、一人一人に合わせた対応を大切にしている。	A	A	○今年度は前年度より他園との交流が多く、初めて会う友達、久しぶりに会う友達と遊ぶ機会が多く、子どもたちにとって楽しい一年だったのではないと思う。近隣の小学校へ行ったり、老人ホームで大道芸を見学したりし、小学校のおおきさん、お姉さんと接することもあり、良い刺激や気づきを得る機会になっていると思う。	○近隣の園や小学校と交流する機会を設け、連携を深めていく。 ○自園の公開保育に参加して頂いたり、他園・他校の公開保育や公開授業に参加させて頂いたりして、交流を図っていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・地域の方との触れ合いを大切に地域に根差した教育保育を実践している	○お便り（お便り）は毎月1回発行し、保護者に届ける機会を作り、園での様子が具体的にわかるように工夫している。（コードモンで配信） ○保育参加会、保護者面談以外にも登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。 ○必要に応じて個別に面談する機会を作り、一人一人に合わせた対応を大切にしている。	A	A	○今年度は前年度より他園との交流が多く、初めて会う友達、久しぶりに会う友達と遊ぶ機会が多く、子どもたちにとって楽しい一年だったのではないと思う。近隣の小学校へ行ったり、老人ホームで大道芸を見学したりし、小学校のおおきさん、お姉さんと接することもあり、良い刺激や気づきを得る機会になっていると思う。	○近隣の園や小学校と交流する機会を設け、連携を深めていく。 ○自園の公開保育に参加して頂いたり、他園・他校の公開保育や公開授業に参加させて頂いたりして、交流を図っていく。
		・地域の未就園の親子が交流を持てるようおしゃべりサロンを開催している	○お便り（お便り）は毎月1回発行し、保護者に届ける機会を作り、園での様子が具体的にわかるように工夫している。（コードモンで配信） ○保育参加会、保護者面談以外にも登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築いている。 ○必要に応じて個別に面談する機会を作り、一人一人に合わせた対応を大切にしている。	A	A	○今年度は前年度より他園との交流が多く、初めて会う友達、久しぶりに会う友達と遊ぶ機会が多く、子どもたちにとって楽しい一年だったのではないと思う。近隣の小学校へ行ったり、老人ホームで大道芸を見学したりし、小学校のおおきさん、お姉さんと接することもあり、良い刺激や気づきを得る機会になっていると思う。	○ビデオレターを届けたり、勤労感謝の訪問をしたりするなど交流の仕方を工夫しながら、様々な経験を重ねられるようにする。 ○散歩に出かける機会を増やし、地域の方と自然な形で交流を図れる機会をもてるようにする。